

## ■ 棚田オーナー、稲刈り

9月6日、「日本棚田百選」に選ばれている北山地区にある上代田棚田と「ぎふの棚田21選」に選ばれている赤薙地区にある赤薙棚田で、「棚田オーナー」による収穫祭が開かれ、県内外各地から訪れた36組 約140名の家族連れが、5月2日の田植えから約4ヶ月が過ぎ、黄金色に実った稲を刈り取りました。

棚田オーナー制度は、農業体験を通じて都市と農村の人たちの交流を促すため、八百津町が呼びかけて5年前から行っている事業(年会費3万円)。稲刈り当日は棚田所有者の農家や、役場職員を合わせて約170名の参加となりました。

参加者は午前8時30分ごろから約3時間、地元農家の指導を受けながら、1組あたりの対象面積は約100平方メートルの田んぼで、稲を刈り取った後、稲を乾燥させる“はざ掛け”を行いました。オーナーの半数以上は愛知県から参加しており、その他は県内の近隣の市から参加しています。

収穫後は、バーベキューで交流。農家からも、とれたての野菜や手作りの料理などが持ち寄られ、参加者は収穫の喜びに浸っていました。

なお、オーナーには穫れたお米30kgが送られます。



## ■ 巨大鬼瓦取付 ～国登録有形文化財 法誓寺本堂～



人間と比べてもこんなに大きい!!



高さ18メートルもある棟での取付作業

本年4月から保存修復事業が行われている久田見の法誓寺本堂(亀井俊哉住職)の屋根の葺き替え工事が大詰めを迎え、大きな鬼瓦が取付けられました。

今回の鬼瓦は高さ2.75m・横幅3.42m、厚み0.73mもある大きな物で、18個のパーツに分かれており、総重量1,057.3kg、一番重い物は1個で90kgもあります。4月から6ヶ月をかけ、形作りから、乾燥・焼成を経て完成しました。乾燥・焼成により、12%小さくなるため、完成したサイズを逆算して型作りし、乾燥と焼成だけでも3ヶ月かかっています。中央の胴体部分と両側へ延びた足には、火事よけのため雲の彫刻が飾られ(火事よけのため水にちなんだものを使う)、胴体中央には「法」の紋が刻まれています。

瓦を制作した株式会社 小澤瓦工業(関市)の専務、小澤慶久氏によると「毎年全国の社寺の瓦の製作を担当しているが、こんなに大きな鬼瓦を作るのはまれ、おそらく県内でも5本の指に入るのでは」。一番神経を使った点は「なによりも焼成、18個のパーツを1組で作るため、同じ物が2度と出来ません。1個だけでも失敗すると、最初から全部作り直しになることもあります」と語っていました。